

令和3年度 第3回 広島市まちづくり市民交流プラザ運営委員会 会議録

日時 令和4年3月18日(金) 14時~16時

場所 合人社ウエンディひと・まちプラザ(まちづくり市民交流プラザ)

北棟6階 マルチメディアスタジオ

出席者(委員) 脇谷運営委員長、阿部副委員長、服部委員、山崎委員

(プラザ) 谷川館長、三次主任

議事及び会議要旨

議題1 令和3年度事業進捗状況について

事務局から、令和3年度事業進捗状況について報告し、意見が交わされた。

・コロナ禍の中、中止や延期など苦労されたと思うが、「ピンチはチャンス」と捉えた場合、この経験を生かして、今後、どう事業を発展させていきたいか、また、コロナ禍の中でも良かった点・悪かった点を聞きたい。

○悪かった点は、計画した事業の中止が重なり、楽しみにお申込みいただいた方にお断りの連絡ばかりになったのが残念だった。

良かった点は、ネット会議を取り入れ開催するという選択肢が増えた。次年度はZoomやチームス(いずれもネット会議用のアプリケーション)の契約を行い事業に取り入れていくことになった。また、講師からネットを介した講座の実施方法などの提案をいただくなど、皆さんが工夫しながら新しい取り組みに挑戦されているのを実感した。今後、ネットを活用するとなると著作権が複雑であることが分かったため、著作権についても勉強しながらネットを活用しないといけないと感じた。

例年、同様に実施していた事業も制限の中で変更を試みる機会にもなり、職員もそれについて話し合いの時間をしっかり取ることができた。

・オンラインの活用は様々な場所で取り入れられるようになり、これまで遠方で参加できなかったセミナーなども気軽に参加できるようになり、逆に学びの機会が増えた。ぜひ、プラザも積極的に取り入れて欲しい。

・オンラインが広がりを見せているが、それらのソフトや機材を扱う技術が追いつかない人もいる。それらを学ぶ機会を設けてはどうか。

・中央公民館が中心となって組織する「リモート公民館」というグループが、コロナ禍の中活躍して注目を集めている。そのような活動が市内公民館に普及したらいいと思うが、設備整備に高額な費用がかかるため一部の地域でしか活動できないとのこと。プラザがネット会議のアカウントを持つのであれば、それらをプラザの利用者に広く活用してもらおうようなことができないだろうか。

○ソフトの扱いについて学ぶ機会として、次年度はZoomの講座を計画している。ネット会議用アカウントの活用については、プラザと共催できればネットを活用した事業を実施していくことは可能であるし、活用していきたい。

・市社会福祉協議会も祭りを2年中止しており、令和4年度、もし中止となれば今後続けていくのに支障が出てくるのではないかという危機感を持っている。来年度についてはコロナの感染状況を考慮しながら出来る形を考えて実施したいと運営側は思っているが、休館となると実施が難しくなる。休館が続くと情報交換の場も減り、活動が停滞してしまう。ボランティアさんも高齢化を迎えており、感染力の強いウイルスがまん延すると、対策期間が明けても、活動を自粛される方も出てきている。

活動が再開していく中で、仲間の顔を見ることが出来る喜びをみんなでも実感しており、集まることの大切さを感じている。注意しながら、活動の場・つながりの場を作ることを考えていかなければならない。Zoomの活用については、(直接会って情報交換できるに越したことはないが)災害研修など離れていても同時に多数の人が参加して実施できるメリットがある。

3月6日をもってまん延防止措置は解除されたが、現在も感染状況は改善しているとは言えず、今後どうなるか油断できない状況だと思っている。

・区社教もまん延防止措置の解除を受けて活動を再開しつつあるが、まだまだ不安はある。さまざまなサロンを実施しているが、毎週火曜日に実施している「いきいき百歳体操」は、そろそろ活動を再開したいとの声が上がった。他の地域でも徐々に活動を再開している様子もあり、感染対策を十分に行って15日に実施してみた。幸い悪い結果の報告は上がっていないため、今後も恐れを持ちつつ実施していく事は必要かなと感じている。

・まちづくり生涯学習情報誌「らしっく」を並べて拝見したところ、表紙に「Vol. 60 朝風号(7月号)」「Vol. 61 小雪号(11月号)」「Vol. 62 花曇号(3月号)」というタイトルが入っているのに気づいた。これは毎回違うタイトルが入っているのでしょうか。

○一緒に編集発行している編集社の方に提案いただいている季語で、毎号重複しないよう季節に合ったタイトルを入れている。

・発行のたびに読んではいるが、このようなタイトルが添えられていたことに、3号分の表紙を並べて見比べて初めて気づいた。とても粋で風情が感じられ良いアイデアだと思う。

・ボランティア人材バンクについて、コロナ禍により事業の実施が難しくなり紹介件数が減少している、との報告があった。自身もバンク登録者だが、1度紹介してもらおうと、紹介先と登録者の連絡が取れるようになり、次回からバンクを通さずに直接やり取りが進む場合もある。このようなこともあり、登録者の活動はあるがプラザに報告があがらない事例があるのではないかと。バンクを通した紹介件数が減っているように見えても、実態はマイナスではなく、登録者の活動はあるのではないかと。

○公民館だよりを見て、講座の講師が登録者であることを知ることもあり、直接やり取りされている実態はプラザも以前から把握している。バンクを通して活動を行うことを強制してはいないため、公民館や登録者に直接そのことを言うことは無いが、公民館によっては事後報告をいただくこともあり、その場合は紹介件数として計上している。そのようなことはこれまでも恒常的にあるが、それを差し引いてもこの2年の紹介件数の減少傾向は急激であり、コロナ禍における各団体の活動の中止や延期・登録者の活動の自粛を実感した一年だった。

・以前は1回目の紹介以降も活動依頼が直接入ればプラザに報告していた。人材バンクが機能しているという実績にもなる。そのようなことは続いているのか。年を経るにつれて報告も廃れ、知らない新規登録者もいるかもしれない。

○現在、バンクを通さない活動の報告を積極的に依頼していないので、登録者の方の任意になっている状態である。報告されていない活動、高齢化による登録者の減少、コロナ禍による自粛が減少の主な原因となっている。

・数字的には下がっていても、今、公民館で活躍している人の顔ぶれを見れば、人材バンクをきっかけに活動が広がっていると感じる。件数が評価の全てではないが、バンク制度は市内の市民活動・生涯学習活動に貢献していると思っている。依頼で呼ばれた先で相談を受けることもあり、「バンクにこんな人がいるからプラザに相談してみなさい」とアドバイスすることもあり、つながりや活動は広がっている。

○最初の紹介だけだったとしても、それをきっかけに活動が広がる場所にバンクの役割を感じる。職員も様々な活動をされている方がいるのを知るよいシステムだと思っており、プラザの財産でもある。登録者は減少していても新しい登録者は年に数人ある。皆様の意見を伺い、より良い活動のための工夫をしていく必要があると実感した。発表会などを通してPRを進めていきたい。

議題2 まちづくり市民交流フェスタについて

9月9日(木)に市の方針で9月30日(木)まで臨時休館が決定したため、フェスタ実行委員会及びフェスタの中止を決定したが、応募状況や開催にあたっての取り組みについて報告した。

①応募状況

部 門	募集团体数	申込団体数
展示・体験部門	7	7 団体
講座・講演会部門	6	1 団体

上映・コンサート部門	2	1 団体
発表部門（人材バンク登録者のみを対象）	1 5	1 1 団体
大学ボランティアサークル	—	1 団体
合計		2 1 団体

※新規の募集を行わず、31年度・元年度参加団体及び人材バンク登録者に応募用紙を送付

②フェスタ2022の日程

令和4年11月19日（土）・20日（日）

- ・今年の工夫を生かして、来年度は是非実施して欲しい。

議題3 令和4年度事業計画について

事務局から、令和4年度事業計画について報告し、意見が交わされた。

・前回の運営委員会で、ネットを活用することの利便性と可能性の大きさを報告させてもらった。その後も、ネットを活用した事業や祭りに中継で参加するなど、デジタルでの活動の経験を重ねた今、改めて、実際に会って交流することの大切さを実感している。コンサートや人材バンク発表会に立ち会っていると、アナログの良さを感じる。「デジタルは人を自由にするために利用するもの。」という言葉聞いてなるほどと思った。便利さかどうかではなくて、自由になるための手段の1つとしてデジタルを活用できたらいいと思う。デジタルの体験を通して、アナログで手作りの活動が生み出す力強さ、手間をかける良さ・大切さを強く実感した。

- ・フェスタでFM放送をやってみても面白いのではないかな。できる人がいるのではないかな。
- ・コロナ禍で交流が少なくなったことを皆が体験したので、また人が活動に戻ってくる予感がする。
- ・紙芝居をネットで見るのができたが、やはり間近で見たかったという思いが湧いた。
- ・防災講習などもネットでやってみた。機械に疎い者もあり、参集して研修したいと思った。
- ・今後も感染状況が分からない中、事業を進めていかないといけないと思うが、フェスタの中止の原因が実行委員会が開催できなかったためなのであれば、次回は実行委員会の開催を早めてみてはどうだろうか。ゆとりができるのではないだろうか。

○今年度は夏に長期の休館期間が入ってしまったため、実行委員会を例年よりも遅く、回数も2回から1回に減らして設定した。確かに、例年よりも早めの実行委員会を計画すれば、途中で休館が入ったとしても準備期間が長く取れ、開催のチャンスは増えるように思う。職員会議で検討したい。

4 その他

自由に意見の交換を行った。

- ・運営委員の委員について、20代くらいの若い方、経営者や地域の応援隊を経験されている方等の意見をもらってもいいのではないかな。
- ・プラザの利用者がコロナ禍の休館等により減少しているため、利用料金も減少していると思う。プラザの貸館を維持していくためにも、何かプラザの運営の助けになるような事業ができればいいのではないかなと思う。例えば、ネット会議が広まっているので、自宅で設備が整っていない人のためにプラザの部屋を貸し出すなどの取組はできないだろうか。

○個人利用はできないので個人を対象にした貸館業務はできないが、プラザにはPCを備えたマルチメディア実習室があり、市内公共施設でも珍しい貸し部屋サービスだと思っている。Zoom等を使った研修や会議も増えているため、施設そのもののPRはもちろん、Zoomを使用した会議でどのように接続・設定したらいいか、職員も学びながら利用方法を提供できるようにしていきたい。

【次回の運営委員会】

6月を予定

閉会